

こちら航空宇宙推進室

観測ロケット「ねじのロケットMOMO7号機」 打上げ延期に

7月18日（土）、19日（日）および25日（土）、26日（日）の期間で打ち上げ実験を実施していたインターステラテクノロジズ株式会社（IST）の観測ロケット「ねじのロケットMOMO7号機」は、機体内の電子機器にトラブルが発生し、原因究明と対策に時間がかかるため、打ち上げを延期しました。

今回、トラブルが発生したのは、メインエンジンの点火器部分であり、温度上昇が確認できなかったため自動停止しました。

ISTによると、次回の打ち上げ時期は未定で、今後は、トラブルの原因究明に努めるとのことです。



JAXA大気球実験実施！

7月14日（火）、25日（土）に大樹航空宇宙実験場において、下記2つのJAXA大気球実験が実施されました。大気球は、飛行機より高く、人工衛星よりも低い高度（約30～50km）に長時間滞在できる唯一の飛翔体として、地球観測や工学実験などに利用されています。

○7月14日（火）「皮膜に網をかぶせたスーパープレッシャー気球の性能評価」

この実験は、体積2,000m³（直径約18m）のSP気球（皮膜に網をかぶせる手法で製作され、高耐圧性能を軽量で実現し、大重量の観測装置を吊り下げて長時間飛翔させることが可能な飛翔体）の飛翔試験を通じて、打ち上げから回収までの一連の運用が可能であることを確認するとともに、飛翔環境下での完全展開、耐圧性能を評価することが目的です。

気球は午前3時53分の放球後、何らかの理由により想定通りに上昇しませんでした。所定の手順により高度を維持しながら安全な海上まで飛翔させ、同午前5時40分までに回収船によって回収されました。今後、飛翔データおよび回収した気球皮膜の検査などにより原因を調査していく予定です。

○7月25日（土）「マルチクロックトレーサーによる大気年代の高精度化」

この実験は、これまでクロックトレーサーと呼ばれる二酸化炭素または六フッ化硫黄を観測し、その濃度から大気年代を決定する研究が行われてきましたが、それに加えて新たなクロックトレーサーの濃度を計測し、独立に大気年代を決定、およびこれまでの研究の妥当性の検証を行い、大気年代決定の高精度化・重層化などを図ることが目的です。さらに、過去からのモニタリングに最新データを加え、成層圏における物質循環の長期変動を解明することも目的としています。

気球は午前3時57分に放球され、2時間25分後に高度35kmへ到達、その後水平浮遊状態を経てから海上に緩降下し、同午前7時38分までに回収船によって回収されました。

